



支部だより

第 93 号

編集・発行

〒464-0039

名古屋市千種区日和町2-18

名古屋地方気象台内

日本気象学会中部支部

電話 052-751-5124

2022. 11. 04

目次

- ・ 中部支部第 25 期役員選挙結果の報告 1
- ・ 2022 年度（令和 4 年度）中部支部総会の報告 2
- ・ 第 25 回公開気象講座の報告 2
- ・ 2022 年度（令和 4 年度）中部支部研究会のお知らせ 3

■中部支部第 25 期役員選挙結果の報告

第 24 期役員の任期が 2022 年 6 月 30 日で満了となるため、第 25 期の支部役員選挙に伴う開票が 6 月 23 日に 林広樹会員、鈴木光会員の立会いのもと、選挙管理委員会（肆矢朗久委員長、森下和也委員）により行われました。開票結果は以下のとおりです。なお、第 25 期役員の任期は 2022 年 7 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日までの 2 年間です。

1. 理事

東海地区（愛知県、岐阜県、三重県）

当選	123 票	田口 正和	愛知教育大学
当選	123 票	立花 義裕	三重大学
当選	123 票	坪木 和久	名古屋大学
当選	124 票	中三川 浩	名古屋地方気象台
当選	122 票	槇野 泰夫	気象予報士会
当選	123 票	吉村 香	岐阜地方気象台

北陸地区（富山県、石川県、福井県）

当選	123 票	安永 数明	富山大学
----	-------	-------	------

長野・静岡地区（長野県、静岡県）

当選	122 票	轡田 邦夫	東海大学
----	-------	-------	------

2. 会計監査

当選	122 票	沼本 秀紀	日本気象協会中部支社
----	-------	-------	------------

■ 2022 年度（令和 4 年度）中部支部総会の報告

日時:2022年7月14日（木） 15時から15時30分

場所:名古屋地方気象台会議室

議長:肆矢朗久会員

総会出席者11名と有効総会参加票99通の合計が110となり、支部会員283名の3分の1を超え総会は成立しました。総会参加票による各議案への意思表示は以下のとおりです（議長委任52名）。

議案(1) 賛成 47 反対 0 保留 0

議案(2) 賛成 47 反対 0 保留 0

議案(3) 賛成 47 反対 0 保留 0

議案(4) 賛成 46 反対 0 保留 1

議案(5) 賛成 46 反対 0 保留 1

全ての議案で、出席者全員の賛成と委任状の議長委任および賛成票を加えた結果、過半数を超え、賛成多数で承認されました。

（中部支部事務局）

■ 第 25 回公開気象講座の報告

日本気象学会中部支部主催の公開気象講座は、気象学に関する専門的かつ最新の知識を一般の方々に分かりやすく解説することを目的に開催されるもので、今年で25回を数えます。今回は「気候や人間の健康に影響を及ぼす大気中の微粒子(エアロゾル)」をテーマに、9月3日にオンラインで開催しました。

中三川支部長による開会挨拶の後、海洋研究開発機構の金谷有剛氏より「エアロゾルは最新のIPCC 報告書でどう語られたか」と題して、名古屋大学の松井仁志氏より「コンピュータで再現するエアロゾルとその気候影響」と題して、慶應義塾大学の奥田知明氏より「曝露実験で探るエアロゾルの生体影響」と題して、それぞれ分かりやすく解説いただきました。また、最後にパネリスト(講演者 3 名、支部長、ファシリテータの水嶋千詠氏)による総合討論を行いました。参加者は 64 名を数え、活発な質疑応答が行われました。

講座終了後のアンケートでは、参加者の 8 割以上の方に本講座の内容について「理解できた」・「おおむね理解できた」とご回答いただくことができ、「エアロゾル」にあまり馴染みのなかった参加者の方も含めて、その気候・健康影響に関する知見を大いに深めていただく有意義な講座とすることができました。講演者の皆様、ご参加いただいた皆様に、深く感謝申し上げます。

（中部支部事務局）

■ 2022 年度（令和 4 年度）日本気象学会中部支部研究会のお知らせ

※ 聴講は会場でも Zoom でも可能ですが、いずれも事前登録が必要です（講演者は除く）。

登録は、日本気象学会中部支部事務局(chubu-admin@netsoc.jp)に氏名、連絡先（メールアドレス、電話番号）、聴講方法（会場、Zoomオンライン）を 11月22日（火）までにお知らせください（Zoomアドレスは事前登録メールアドレスに 11月24日（木）お知らせします）。なお、聴講は会員以外でも可能です。

日時：2022 年 11 月 28 日（月）13:00 ～ 18:10

11 月 29 日（火）9:00 ～ 16:10

場所：名古屋大学東山キャンパス（名古屋市千種区不老町）

宇宙地球環境研究所 研究所共同館Ⅱ 3階ホール

※Zoomオンライン併用

交通案内：名古屋市営地下鉄名城線名古屋大学駅2番出入口下車徒歩約15分



※大学への交通案内：<https://www.isee.nagoya-u.ac.jp/directions.html>

○新型コロナ感染症対策ご協力のお願い(会場参加の方)

- ・体調のすぐれない方は、参加を控えてください。
- ・会場内ではマスクの常時着用をお願いいたします。
- ・会場へ入場する際には、手指の消毒にご協力ください。
- ・会場となる研究所共同館Ⅱ内では食事はできません。2 日目(11月29日)のみ、食事が可能な部屋を用意しますが、入室可能な人数が制限(16 名)されていますので、屋外広場、食堂等の利用もご検討ください。
- ・緊急事態宣言発出、名古屋大学の要請等により、会場の使用が出来なくなった場合には全面オンラインでの実施としますが、その際は、開催1週間前までを目処に登録メール宛ておよび中部支部 HP でお知らせします。

○留意事項

- ・特別講演、支部長賞授与式は行いません。支部長賞選考結果は、後日、中部支部 ML でお知らせするとともに中部支部 HP に掲載いたします。
- ・講演時間(18 分(講演 14 分、質疑 4 分))には、交代および講演資料立ち上げ時間を含みます。ご協力よろしくお願いいたします。
- ・質疑は会場優先とし、オンラインでの質疑は、時間に余裕がある場合のみ受け付けます。

プログラム

11月28日（月） 13:00～18:10			1題18分（講演14分、質疑応答4分）
1題18分（講演14分、質疑応答4分）			※氏名・所属が斜体文字の講演はオンライン発表
	講演時間	講演者氏名	講演者所属
	13:00～13:10	開会挨拶	中三川 浩（名古屋地方気象台長／中部支部長）
1	13:10～13:28	大坂 龍生	名古屋大学
		梅雨期に九州地方で発生する大雨現象に関連した湿潤絶対不安定層(MAUL)の特徴	
2	13:28～13:46	伊藤 忠	日本気象予報士会 東海支部
		強雨帯維持へのメソスケールの低気圧の寄与	
3	13:46～14:04	山中 晴名	三重大学
		洋上直接観測データで視る北海道西岸帯状雲	
4	14:04～14:22	藤村 貴広	富山大学
		梅雨期における、降水と上層の静的安定度の関係	
5	14:22～14:40	藤井 貫	富山大学
		富山県における解析雨量を用いた気象擾乱別の極値統計	
		休憩	
6	14:54～15:12	轡田 邦夫	東海大学海洋研究所
		駿河湾湾奥域における海面熱収支の評価	
7	15:12～15:30	青島 美穂	富山大学
		高海面水温上での海上気温上昇の抑制	
8	15:30～15:48	佐藤 鴻介	富山大学
		海面水温-海面熱フラックス-海上風関係の海域・時間スケール依存性	
9	15:48～16:06	野村 尚平	富山大学大学院
		2008年最大規模寄り回り波を駆動した日本海での海上風強制とそれをもたらす大気擾乱場の関係	
10	16:06～16:24	錦織 光希	富山大学
		日本海全域における冬季雷のエネルギーに関する統計解析	
		休憩	
11	16:40～16:58	岩崎 利勝	富山県高岡市立中田中学校
		生徒の主体的な学びを生かす中学校気象防災教育の実践	
12	16:58～17:16	川植 靖悟	富山大学
		北太平洋海面水温偏差の近年の特異な空間分布について	
13	17:16～17:34	堀 聡太	富山大学
		黒潮続流域における近年の海洋貯熱量上昇について	
14	17:34～17:52	山田 裕貴	三重大学
		夏季に発生する広域豪雨の長期化について	
15	17:52～18:10	天野 未空	三重大学
		近年において災害級の冷夏が発生していない理由とは？	

11月29日（火） 9:00～16:10 1題18分（講演14分、質疑応答4分）

1題18分（講演14分、質疑応答4分） ※氏名・所属が斜体文字の講演はオンライン発表

	講演時間	講演者氏名	講演者所属
16	9:00～9:18	<i>Zhuchendi</i>	<i>名古屋大学/SEE</i>
		Study on hydrometeor classification based on polarization radar measurements – Compare the clustering approach and HC techniques –	
17	9:18～9:36	黒沢 裕也	名古屋大学 SEE
		GPM DPRの固体降水プロダクトの評価	
18	9:36～9:54	宮入 真菜	名古屋大学 SEE
		マルチパラメータ・フェーズドアレイ気象レーダデータを用いた孤立積乱雲のライフサイクルにおける内部構造の変化	
19	9:54～10:12	中澤 利恵	名古屋大学 宇宙地球環境研究所
		ファーストエコー検出に関する指標の検証 -Kaバンド雲レーダを用いた定量的アプローチ-	
20	10:12～10:30	林田 敦史	名古屋大学宇宙地球環境研究所
		偏波パラメータの鉛直分布から推定される梅雨期の強雨形成における雲物理過程	
		休憩	
21	10:40～10:58	森下 和也	名古屋地方気象台
		二重偏波レーダーのデュアル解析によって推定した雷雲内の上昇流および霰領域体積と雷活動との関係	
22	10:58～11:16	堀 晃大	名古屋工業大学 大学院
		グラウンドにおける鉛直方向乱流熱流束の多点同時測定	
23	11:16～11:34	松谷 奈央子	名古屋工業大学 大学院
		飛行温度センサによる地表近くの気温変動計測の試み	
24	11:34～11:52	佐野 美憂	三重大学大学院生物資源学研究科
		熊野灘で観測された海上竜巻の発生環境場	
25	11:52～12:10	山本 諒	三重大学大学院
		豪雪地帯と非豪雪地帯における降雪量の風依存性の違い	
		昼食（60分）	

次ページに続く

	講演時間	講演者氏名	講演者所属
26	13:10～13:28	佐々木 淳弥	静岡地方気象台
		愛知県における冬型の気圧配置による大雪の統計解析	
27	13:28～13:46	塚田 希望	富山大学
		冬季の富山の局地循環の構造に関する研究	
28	13:46～14:04	上好 慧	富山大学
		鉛直モード分解を用いた CCEWs・MJO の統計解析	
29	14:04～14:22	日置 真太郎	富山大学
		Warm Pool域における季節進行に伴う対流活発域の東進	
30	14:22～14:40	竹端 光希	三重大学
		オホーツク海の海氷変動に及ぼす熱帯海洋からの遅延影響	
		休憩	
31	14:50～15:08	吉川 契子	静岡県立静岡城北高等学校
		文系進学者が多い高等学校で育む気象への興味	
32	15:08～15:26	平賀 詩之助	三重大学
		カリブ海上の対流に励起されたテレコネクションがバレンツ海の海氷減少に与える遅延影響	
33	15:26～15:44	松田 佳奈	三重大学
		台風が周辺の低気圧の発達に及ぼす影響	
34	15:44～16:02	赤井 直樹	名古屋大学宇宙地球環境研究所
		台風降雨帯の構造と雲微物理学特性の解析	
	16:02～16:10	講評	坪木和久（名古屋大学教授／中部支部理事）